

開催校（阪南大学）からのご挨拶

統一論題：「激変する国際ビジネス環境の中の日本企業を考える」

国際ビジネス環境は常に激変の中にあると言われます。

しかし、2018年のEUからの英国の離脱（ブレグジット）と米中経済対立の激化、2020年からのコロナ禍によってワクチン開発国の思惑と各国の争奪戦、2022年からのロシアによるウクライナ侵攻とこれを巡る国連の機能不全、そして2023年からのイスラエルとパレスチナの悲劇を想起すると、21世紀初頭に「グローバル化の時代」と謳歌していた頃とはまるで様変わりした、「世界の分断」というべき状況が現在の我々の目の前で展開しているように思われます。

振り返って、我が国をみても、「失われた30年」という言葉に代表されるように、賃金が上がらず、非正規雇用が増え、GDPは2023年にドイツに抜かれ世界第4位に下がり、2024年6月には為替レートは円安160円という38年前の水準にまでなってしまいました。

これを「激変する国際ビジネス環境」と言わずして何というのでしょうか？

ちなみに今年は本学会創立（1994年）から数えて満30年の節目に当たります。そこで、第31回年次大会は、学会創立30周年記念行事を開催すると同時に、「激変する国際ビジネス環境の中の日本企業を考える」を統一論題とし、グローバルサプライチェーンの再編成、多極化する世界、アンチグローバル主義、技術のオープン化とクローズ化、今後の日本企業など多彩なトピックの下、国際ビジネス環境を大いにみなさまで考え、そして語って欲しいと願っております。

是非みなさまに、大阪「河内」の地においでいただけることを楽しみにしております。

第31回年次大会実行委員長 伊田昌弘（阪南大学）